

## ごえんせいはいえん 肺炎—特に誤嚥性肺炎—について

呼吸器科部長 阿部信二

「肺炎は老人の友である」

これは 1898 年に内科医ウィリアム・オスラーが述べた言葉ですが、100 年以上経った現在でも実在的を得ている名言があります。当初、オスラー先生は肺炎は老人の仇敵として奮闘しましたが、熟考を重ねに重ねた上で訂正した言葉とされています。



肺炎は 2011 年に脳血管障害を抜いて、我国の死因の第3位となりました。高齢になる程、その順位は上昇し、75 歳以上の男性では死因の第 2 位、90 歳以上では第 1 位となります。

こうしたなかで、従来の市中肺炎、院内肺炎の概念では当てはまらない、医療・介護関連肺炎(NHCAP)という考え方が提唱されており、老健施設や老人病院、あるいは入院中の患者さんの誤嚥性肺炎ごえんせいはいえんが大きな問題となっています。多くの場合は嚥下障害えんげしょうがいに伴う不顕性誤嚥ふけんせいごえんが背景にあり、単に禁食にして抗菌薬を投与するだけでは十分ではありません。むしろ肺炎治癒後に、栄養ルート、リハビリテーション、口腔衛生の管理など、その後の誤嚥ごえんを予防するために多職種スタッフの協力が必要となります。また胃瘻造設いろうぞうせつや終末期の肺炎に対してどこまで対応するかなど倫理的な問題も生じてきています。

2025 年には我が国の人口の 4 人に 1 人が 75 歳以上という超高齢化社会を迎えます。まさに「肺炎は老人の友」として、医療者のみならず社会全体で対応していかなければならない時代がすぐそこまで来ています。

☆診察のご予約は、下記電話番号からお願いします☆

広尾病院予約専用電話 03-3446-8331

予約受付時間 月～金曜日 9:00～17:00 土曜日 9:00～11:30